

## 本人中心の支援の実現に向けて

～ 幼児期・学齢期にしっかり土台作りを！

社会福祉法人 水仙福祉会  
淡路こども園 岩崎隆彦

### 【1】本人中心の支援とは

- ・ かけがえのない人生。本人がその人らしく納得のいく生き方ができる
  - ・ どんな障害があっても、本人の意思・感情・内面の世界を持っている。
  - ・ 人と共に生きる。人への信頼感、安心感が持てる。
  - ・ 困難に直面したとき、人に援助を求められる。自分なりに対処できる。
  - ・ 自己信頼。自尊感情（自分を大切に思う気持ち）
- 「本人がどのように受け止めているか」が大切！

### 【2】支援の現状と課題

#### （1）乳幼児期、学齢期、成人期の支援を通して見えてきたもの

- ・ 本人のみを支援対象とすることの問題
- ・ 成人期に厳しい状況に置かれている人たち
- ・ 家族の負担感

#### （2）本人中心の一貫した支援の難しさ

時期時期で変わる「支援者」  
本人を取り巻く人の多様性  
支援者から見えにくい家庭の状況

#### （3）共に生活する家族の置かれている状況

障害が判明したときの精神的ショック  
育児をする母親の抱える悩み・困難  
家族への理解の不足、具体的支援の欠如  
家族が問題に対処する力をつけていく支援

#### （4）家族支援の欠如は、幼児期、学齢期、成人期まで影響する

求められる保護者とのパートナーシップ

【3】乳幼児期から学齢期・成人期を通して必要な「本人理解の視点」

焦点が当てられにくい「こころ」

とびつきやすい対症療法

求められる「本当の安心感、喜び」につながる支援

「気持ちのつながり」と「手応え」

【4】学齢期に起きてくる問題と対処

(1) 多くの問題に直面する学齢期

(2) 学校と家庭との連携

(3) さまざまな所で生じやすい「齟齬」

(4) 行動障害の作られる背景と対処

行動上の問題の発生

家庭で対処に苦慮する（分かりにくい行動の背景）

できにくい学校への相談

共通の基盤で話し合うことの難しさ

・場による行動の違い

・見えにくい本人の本心

すれ違いのまま悪循環していくと

家族の危機、本人の危機（入所施設が求められる背景）

(5) 問題解決に向けてのとりくみ

行動の意味を理解するために

・生活全体を見る

・家庭との信頼関係・協力関係

・分かりにくい行動の意味を理解する視点

早期に対処することが大切

本人が分かりやすく表現できる援助を

(6) 特別支援教育に対する期待

(7) 学齢期から青年・成人期への橋渡し

【6】専門職の役割と責任

(1) 本人にも家族にも納得のいく生活になるように

(2) 本人が自分らしく生き生きと生活できる

(3) 家族が本人の成長を喜べる

サポート研第6研究委員会編（2002） 『お母さん100人に聞きました』